

六、野戰病院等ニ居ル軍醫、事務員、負傷者運搬者等ハ如何ナル取扱ヲ受クルカ。

此ノ者ハ戰鬪ニ關係ナク者デアリマスガ敵ニ圍マレタ場合デモ其ノ病院運搬所等ニ在ツテ自分ノ任務ヲ盡シテ居ルコトガ出來ルノモナラズ若シ任務ガ終ツタナラバ自己ノ所持品ヲ持ツテ何時デモ自己ノ軍ニ飯ルコトガ出來マス。

七、敵味方ニ關セズ負傷者ノ介抱ヲシテ居ル土民ニ對シテハ如何ニ心得居ラサルベカラザルカ。

此ノ土民ハ決シテ他ノ用事ニ使ワテハナリマセン家屋モ亦侵入シテ之ヲ使用スルコトハ出來マセン此ノ如キ土民ハ戰時ニ納ムベキ税金モ免ジ又軍隊ハ宿舍トシテ此ノ家ヲ使フコトハ出來ナイモノデアリマス。

(外國軍カラ占領セラレタ土民ハ其ノ占領軍ニ税ヲ納ムベキモデアリマス)

八、敵ノ負傷者ニシテ我軍ニテ救護セシモノハ如何ニ取扱ハルベカラカ。
敵味方ノ司令官ノ協議上各死傷者ヲ送り還スコトガ出來マス。
又治療シテ全快シマシタラ兵役ニ堪ヘナイト認メタル者及戰爭中再ビ兵器ヲ手ニシ

テ戰爭ニ從事シナイト盟ウタ者ハ歸國ヲ許サレルコトモアリマス

九、然ラバ汝等ハ戰場ニ於テ負傷セバ直ニ赤十字條約ニヨリテ敵ノ救護ヲ受クルコトヲ得ンシテ居ルベキカ。

日本人ハ決シテ左様ナ心得デハナリマセン先祖代々御恩ノ深い
天皇陛下ノ御爲ニハ肉體ノミナラズ魂ガ死ス迄戰鬪セネバナリマセン負傷ノタメ氣絶シテ知ラヌ内ニ敵ニ救ハレタト云フナラバ特別、然ラデナケレハ手足カ動カナケレバ敵ノ罌丸ニデモ喰イ付イテヤルト云フ決心デ居ラナケレバ日本魂アル日本武士ノ所作トハ申サレマセン、即チ死スルノ榮アリテ降ルノ辱ナシトハ實ニ先祖ノ武士カラノ遺訓デアリマス。

救急法及衛生法

一、救急法ノ意義ハ如何。

救急法トハ戰場デ負傷シタトキ或ハ凍傷、卒倒、溺水シタ時等ニ應急ノ手段ヲ以テ人命ヲ全ツセシメントスルモノデアリマス。

二、救急法ヲ大別シテ何種トスルカ。

創傷、急病ノ三種デアリマス。

三、創傷ニ種々アレドモ其ノ大要ハ何々ナルカ。

挫創、銃創、砲創、截創、刺創、等デアリマス。

四、戦時出征ノ際各兵ノ携帯スル繃帯包ハ何ニ用フルカ。

救急ノ爲メ使用シマス。

五、繃帯包ハ何々ヨリ成ルカ。

三角巾一枚、昇秉ガーゼ四枚「ガーゼ」包紙二枚、被包布一枚カラ出来テアリマス而

シテ「ガーゼ」ハ疊ンデ二枚宛ヲ包紙ニ包ミ其ノ二包ヲ疊ンダ三角巾ニ挿ミ此ノ三

角巾ヲ被包布デ包ンデ、縫ウテ封緘紙ヲ貼リマス。

六、繃帯包ハ何處ニ容レヲクカ。

繃帯包ハ衣ノ左裾裏ニ納レマス。

七、繃帯包ヲ使用スル要領ハ如何。

被包布ヲ解イテ包紙ヲ破リ「ガーゼ」ヲ兩手デツマミ物ニ觸レナイ様ニ「ガーゼ」ヲ
開キ指ノ觸レナイ所ヲ創ニ當テ殘リノ「ガーゼ」ヲ其ノ上ニ重ネテ三角巾ヲ卷キマス。

八、一度開キタル繃帯包ノ「ガーゼ」ヲ數度ニ用ヒテモ宜シキカ

一度ニ使用セネバナリマセン。

九、挫創トハ如何ナルモノカ。

撲チ、挫キ又ハ振ツタ傷ヲ謂ヒマス。

十、其ノ治療ノ要領ハ如何。

挫創シタ部分ヲ冷水デ冷シ又ハ手巾、手拭等ヲ冷水ニ浸シテ洗ヒ「ガーゼ」ヲ創口ニ
當テ三角巾ヲ以テ緊ク卷キ其ノ端ヲ結ヒ或ハ止針デ縫ヒ止メマス。

十一、砲創、銃創、截創、刺創ハ何ニ原因シタル創傷ナルカ。

砲創ハ砲彈ニ因ルモノ銃創ハ小銃彈ニ因ルモノ截創ハ白兵デ截斷セラレタモノ刺創
ハ刺突セラレシタ創傷デアリマス。

十二、骨傷軟部銃創トハ如何。

何創ヲ開ハズ骨ヲ損シタモノヲ骨傷ト云ヒ軟部銃創ハ筋肉ノ部ニ銃創ヲ受ケタノヲ云ヒマス而シテ銃創ニ貫通銃創ト盲貫銃創トアリマス。

十三、創ノ癒ユルコトヲ妨グルハ何ニ因ルカ。

病原菌ガ創口カラ入ルカラデアリマス。

十四、病原菌ノ入ラナイ様ニスルニハ如何ニセバ宜シキカ。

病原菌ハ空氣中ニ雜リ、又ハ塵ニ附イテ居ルカラ、創口ヲ開イテ置ケバ塵ト共ニ降ツテ創ニ附ク又傷口ニ觸レルトキニハ手ノ指モ消毒セナケレバ病原菌ガ附イテ居ルカモ知レナイカラヨク消毒セナケレバナリマセン。

十五、彈丸、衣片ノ如キ異物創口ニ見ハル、トキハ抜キ取ツテモ宜シキカ。

宜シクアリマセン。

十六、創ニ血ノ凝リ着キタルトキ之ヲ剝キ取ツテ宜シキカ。

剝キ取ツテハイケマセン。

十七、繃帶スルトキ創ヲ露ハスニ注意ス可キ事柄ハ如何。

一、凡テイタハツテ下寧ニシマス。

二、衣ヲ脱グニハ健側ヨリシ再ビ着ルニハ創側ヨリシマス。

三、襦袢ハ翻轉シマス。

四、袴、袴下ハ左右同時ニ徐ロニ引イテ脱ガセマス。

五、靴ヲ脱グニハ片手ヲ靴ノ踵ニ掛ケマス。

十八、銃創、砲創等ノ療法ノ大要ハ如何。

此等ノ創傷ハ先ツ衣ヲ脱シ場合ニヨツテハ銃創デ創所ノ附近ヲ切り開イテ「ガーゼ」ヲ創口ニ當テ三角巾ヲ以テ卷ダ若シ創口一箇以上デアルトキハ一枚ツツ「ガーゼ」ヲ口ニ當テ残ツタ「ガーゼ」ハ重キ創口ニ當テマス出血ノ甚シイトキハ先ツ血止メヲ行ヒマス。

十九、骨折ノ治療法ノ大要ハ如何。

骨折シタ創傷ハ創傷ノナイ面ニ副木ヲ當テ、繃帶シマス。副木ノナイトキハ樹皮、薄枝、籐、劍身等ヲ副ヘテ固ク其ノ上下端ヲ縛ツテ繃帶シマス。

二十、何創ヲ問ハズ皮膚ノ破レタル處ニハ手指等ヲ觸ルルハ何故不可ナルカ。

濃ヲ生シ治療ガ困難トナルカラデアリマス。

二十一、創口ニ外物附着シタルトキハ如何ニスルカ。

創ヲ拭ウタリ又ハ洗い淨メタリスルトキハ却テ之カ爲メニ病原ヲナス虞レガアリマ

スカラ拭ウタリ洗ツタリハシマセン。

二十二、上肢又ハ下肢ノ骨折ノ徴如何又其ノ時ニ於ケル注意ハ如何。

手足ノ位置常ニ變リ形ヲ變シ曲ツテ角ヲナシ痛ミ甚シク腫レルノデ分リマス。此ノ

時ニハ創ニ觸レナイ様ニ又傷ノツイタ手足ヲ動カサズ折レタ骨端ニ音ヲ生ゼシメ又

曲ツタノヲ直サントスル等ハ嚴禁デアリマス。

二十三、上肢又ハ下肢ノ骨折シタ時補助擔架卒ノ在ラザルトキハ如何ニ縛帶スルカ。

四人ニテ甲ハ創ヨリ上ヲ持チ乙ハ創ヨリ下ヲ持チ丙ヲシテ支ヘテ擡ゲシメテ縛帶シ

マス。

二十四、止血トハ如何ナル事カ。

出血甚シケレバ死ニマスカラ血ヲ止メルコトデアリマス。

二十五、出血ニ靜脈出血ト動脈出血トノ二種アリ其ノ差異ハ如何。

創口ノ全面カラ平等ニ出血シ其ノ量ノ多クナイ其ノ色ノ暗紅ナノヲ靜脈出血ト云ヒ

創口鮮紅色ノ血迸リ其ノ量ノ多イノヲ動脈出血ト云ヒマス。

二十六、靜脈出血ノ止血法ハ如何。

「ガーゼ」ヲ創口ニ當テ指デ強壓シテ血ノ止マルノヲ見テ更ニ「ガーゼ」ヲ其ノ上

ニ覆ヒ緊ク縛帶シマス。

二十七、動脈出血ノ止血法ハ如何。

其ノ部分ヲ高ク保持シ先ヅ「ガーゼ」一二枚ヲ出血スル所ニ當テ強ク壓ス若シ尙ホ

出血ノ止マナイトキハ創口ノ上部ノ動脈通路ヲ強ク壓シマス。

二十八、上肢又ハ下肢ノ創ヨリ出血スルトキノ止血法ハ如何。

血ノ出ルコト少イトキハ上肢或ハ下肢ヲ擡ゲテ吊リ、又ハ下カラ支ヘルトキハ血ハ

止マリマス。

血ノ出ルコトガ稍多イノニ、擔架卒ガ居ラナイトキハ骨ノ折レナイ限リ甲ハ上肢又ハ下肢ヲ壓ラ乙、「ガーゼ」ヲ創ニ當テ三角巾ヲ縛シマヌ。

二十九、手骨ノ出血ノ止血法ハ如何。

二ノ腕ノ方瘤ノ内側ノ淺イ溝中ニ兩手ノ拇指ヲ當テ他ノ指ヲ廻ハシテ握リ拇指ヲ強ク壓シマヌ。

三十、口附近ノ出血ノ止血法ハ如何。

下顎ノ骨角ノ稍々前方ヲ骨ニ向ケテ強ク壓シマヌ。

三十一、脚ノ止血法ハ如何。

前脚ノ出血ニハ鼠蹊ノ中央ノ下ニ兩拇指ヲ當テ、壓シマヌ。

三十二、三角巾ヲ用フル要領ハ如何。

三角巾ハ開イタ鐘形ト或ハ尖頂カヲ順次ニ疊ンデ巾二寸許ノ帯トシマテ用ヒマヌ又疊ンダノヲ疊三角巾ト名ケマヌ

急病

三十三、卒倒トハ如何ナルモノカ。

眩暈ヲ催シテ顔面ガ蒼白トナツテ倒レルモノデアリマヌ。

三十四、卒倒ノ治療ノ大要ハ如何。

背囊ヲ卸シ被服ノ束縛ヲトイテ空氣ノ流通ノヨイ處ニ通常頭ヲ低クシテ臥サセ（顔ノ赤イトキニ限リ頭ヲ高クシテ冷ス）聲高ク呼び鼻ノ穴ヲ刺戟シ顔ト胸トニ水ヲ灌キ胸、上下肢ヲ毛織布ヲ心臟ノ方ニ向ケテ摩リマヌ尙ホ呼吸ノ弱イトキハ人工呼吸法ヲ行ヒ醒メタトキハ冷エテ湯茶又ハ水ヲ飲マシマヌ。

三十五、火傷及電傷ノ治療ノ大要ハ如何。

衣物ノ皮ニ膠着シテ處ハ強ヒテ引キ離サズ第テ周圍ヲ切リ取りマヌ皮ガ赤クナツタトキハ水ヲ冷ヤシ水泡ヲ生ジタトキハ薄皮ヲ破リマセン。皮ノ爛レタトキ「ガーゼ」ヲ捲クテ縛シ「ガーゼ」ノナイトキハ新シイ布片ニ油ヲ塗ツテ捲ヒマヌ。

指ハ一本ヅ、縛シマヌ。

三十六、^{エツ}喝病トハ如何。

炎熱ノ際發生スルモノテ發汗甚シク皮膚熱シ顔面赤ク頭痛シ呼吸モ促迫シ終ニ人事不省トナツテ倒レルモノデアリマス。

三十七、喝病ノ療法ハ如何。

涼シイ木蔭或ハ屋内ニ移シ衣服ヲ解イテ上半身ヲ高クシ安臥サセテ冷水ヲ手布ニ浸シ頭ト胸トヲ被フ猶ホ醒覺セヌトキハ冷水ヲ全身ニ灌キ若シ呼吸ノ止ツタ者ハ人工呼吸法ヲ行ヒマス又喝病ノ起ル前ハ顔ガ赤クナツテ頭痛ガスルカラ早ク喝病ノ處置ヲシマス。

三十八、凍傷ノ治療ハ如何。

凍傷ハ雪氷若クハ冷水ヲ用ヒテ摩擦シ決シテ急ニ温メマセン水泡ヲ生シ暗黒色トナツタトキハ火傷ト同一ノ處置ヲシマス。

三十九、凍死假死トハ如何。

皮膚ガ蒼白ニ、四肢、耳、鼻等ガ硬クナツテ倒レルモノデアリマス。

四十、凍死假死ノ治療ハ如何。

冷室、若クハ風ノナイ木蔭ニ移シテ衣服ヲ除キ雪又ハ冷水ヲ用ヒテ全身ヲ靜ニ磨擦シ四肢ノ柔軟ニナルノヲ待ツテ冷カナ履具ノ上ニ移シテ乾イタ織物又ハ布片ノ類ヲ以テ全身ヲ摩ル、要スレバ人口呼吸法ヲ行ヒ呼吸ガ復シタラ次第ニ煖メマス又醒メタトキハ微温湯或ハ酒類ヲ少シ飲マセマス。

四十一、溺水者ノ處置法ハ如何。

衣服ヲ除キ手巾ヲ食指ニ纏ツテ口内ノ泥土ヲ拭ヒ去リ次ニ腹ニ丸^{ゴロ}メタ被服ヲ當テ或ハ救護者ガ平坐シテ溺者ノ腹ヲ我が膝ノ上ニ當テ、俯臥サセ胸ヲ低クシ手掌ヲ用ヒテ溺者ノ額ヲ支ヘ稍頭首ヲ反ラシテ水ヲ吐カセ要スレバ人工呼吸法ヲ行ヒマス。

四十二、縊首者ノ救急法如何。

身體ヲ抱ヘ索ヲ絶チ靜ニ仰シタ後胸部ヲ緩メ壓痕ヲ撫デテ人工呼吸法ヲ行ヒマス。

四十三、窒息トハ如何ナルモノカ。

廢井、深窖等ニ入ツテ呼吸力迫ツテ死ニ至ルノヲ云ヒマス。

四十四、窒息ヲ救フニハ如何ニスルカ。

新鮮ナ空氣中ニ移シ顔ト胸トニ水ヲ灌キ又ハ水ニ浸シタ布片ヲ當テ要スレバ人工呼吸法ヲ行ヒマス。

四十五、埋没假死ノ治療ハ如何。

體ヲ動かストキ容易ニ知リ難イ處ノ骨折ヲシテ居ラヌカヲ慮リ丁寧ニ取扱ヒ鼻、口、咽ノ土ヲ除イテ次ニ人工呼吸法ヲ行ヒマス。

四十六、咬傷及螫傷トハ如何。

毒蛇、狂犬等ニ咬マレ或ハ螫サレテ傷ノ付イタノヲ云ヒマス。

四十七、咬傷螫傷ノ治療法ハ如何。

創ノ周圍ヲ輕ク壓シテ血ヲ出シ創カラ心臟ニ近イ處ヲ手巾或ハ紐ヲ縛リ創口ニハ「ガーゼ」ヲ貼ケ三角巾ヲ縛リシマス。

四十八、中毒ノ療法ハ如何。

毒物ヲ飲食シテ未ダ久シクナイトキハ吐カセマス。

嘔吐ヲ促スニハ指頭、羽毛等ヲ咽頭ヲ搔キ、又大量ノトキハ微温湯、鹽湯卵、牛乳等ヲ飲セマス若シ吐カナイトキハ茶、微温湯ヲ飲マセテ毒質ヲ薄クサセマス。

四十九、人工呼吸法ノ大要ハ如何。

患者ヲ平臥サセ口ヲ開イテ舌ヲ引キ出シ、救者ハ頭ノ邊ニ跪イテ兩手ヲ患者ノ肘ヲ捉ヘテ頭ノ上ニ擧ゲサセテ空氣ヲ肺中ニ吸入サセ急ニ患者ノ臂ヲ下ゲ胸側ニ壓付ケ肺ノ中ノ空氣ヲ呼出サセル斯ウスルコト一分間ニ十六回ノ劑ヲ以テ數十回反覆シマス。

衛生法ノ大要

五十、住居地トシテ健康ニ適スル地ハ如何ナル所ナルカ。

土地ガ廣クテ高燥デ日光ノ透射及空氣ノ流通ノ良イ少シ樹木ノアル所ハ健康ニ適シマス。

五十一、勤務、演習上、健康ニ適セサル地ニ一時住マザルベカラザルトキハ如何ニ注意セバ可ナルカ。

應用問答

不健康地デモ衛生ノ法ヲヨク遵守スレバ健康上恐レルコトハアリマセン。

五十二、廁ヲ使用スルニ就テノ注意ハ如何。

廁ハ惡臭ヲ發シ空氣ヲ汚シ又ハ尿管ガ土中ニ浸潤シテ井中ニ混シ害ヲナスモノデア
ルカラ不潔ニセヌ様各人ノ注意ヲ要シマス。

五十三、室内ニ多數ノ人群集セルトキノ注意ハ如何。

人ノ肺臟又ハ皮膚カラ不潔ノ氣ヲ吐キ出シ不快ノ惡臭ヲ感ジマスカラ時々窓ヲ開キ
空氣ヲ交換スルコトガ必要デアリマス。

五十四、炊事場ノ清潔ニ就キ注意スベキ事ハ如何。

炊事場ハ水及種々ノ飲食物ヲ取扱フ所デアルカラ自然不潔ニナリ易イカラ水桶、器
具、炊事當番ノ衣服等ハ毎ニ清潔ニシ食飯類ハ速ニ他ニ移シテ室内ニ殘置シマセン。

五十五、野外演習等ニ於テ渴ヲ催シタルトキノ盥ニ飲水スルハ何故不可ナルカ。

不潔物ヲ含ミ時トシテハ有害ナ微菌等ガ有ルコトガアルカラ決シテ飲水シテハナリ
マセン。

五十六、食物ノ必要ナルハ何故カ。

身體ヲ養ツテ其ノ氣力ヲ補ヒ健康ヲ保全スルモノデアアルカラデアリマス。

五十七、勞働後ノ食事ニ就テ。

甚シク勞働シタトキハ少時間休憩シタ後デナケレバ食事シテハナリマセン。

五十八、肉類ノ使用ニ就テ注意ス可キコト如何。

魚肉ハ新鮮ナモノヲ要シ獸肉ハ屠殺後二十四時間ヲ經タモノヲ要シマス。

五十九、肉ヲ煮、又ハ炙リテ食スルトキノ注意ハ如何。

肉ノ中心マデ火ノ透ルコトニ注意シマス中心ガ猶ホ血色ヲ帶ビテ居ルモノハ火ノ透
ラヌ徴デアリマスカラ能ク火力ヲ透シタ後食スルコトヲ要シマス。

六十、水ヲ節約スルハ何故必要ナルカ。

戰時ハ屢々水ノ不足ヲ來シ十分良水ヲ使用スルコトガ出來ヌコトガアリマスカラ平
時カラ節約スル習慣ヲ養フコトガ必要デアリマス。

六十一、衣服ノ効能ハ如何。

衣服ハ體温ヲ保持シ寒暑及濕潤ヲ防グ爲メ必要ナモノデアアルカラ常ニ清潔ニシ且ツ乾燥サセテ置キマス。

六十二、衣服ノ緊迫ナルハ何故不可ナルカ。

緊迫ニ過ギルトキハ身體ノ運動又ハ血液ノ循環ヲ妨ゲルカラ寛裕ナノヲ良シトマス。

六十三、襯衣、袴下、腹帶等ヲ時々洗濯シテ清潔ニナシ置ク必要ハ如何。

直接ニ肌ニ觸レルモノデ垢ガ附着シ易イカラデアリマス。

六十四、衣服ノ濕ハ何故不可ナルカ。

感冒ノ原因トナルカラデアリマス。

六十五、身體ノ清潔ハ何故必要カ。

健康ナラシメン爲メデアリマス故ニ操練行軍等ノ後ハ先ヅ手足顔等ヲ洗ヒマス。

六十六、頭髮ノ長キ、爪ノ長キ、齒ノ不潔等ハ害アルカ。

頭髮ノ長イノハ不潔ニナリ易キユエ短ク剃リ爪ノ長イノハ垢ヲ堆積シ易イユエ時々

切り、齒ノ不潔ハ口内ノ病ヲ誘起スルカラ毎朝磨キ又ハ含漱シマス。

六十七、傳染病トハ如何ナルモノナルカ。

流行蔓延スル病デ腸窒扶斯、赤痢、百斯篤、虎列刺等ヲ云ヒマス。

六十八、傳染病ニ罹ラヌ様ニスルニハ如何ニ注意ス可キカ。

傳染病ハ患者ノ大便、痰唾、呼吸等カラ傳染シ又其ノ病原菌ガ一度土地、水、食物等ニ入ツテ後、人ニ傳ハルモデアアルカラ傳染病者ニ近接セヌ様又食物ニ注意セバ豫防スルコトガ出來マス。

六十九、虎列刺ハ如何ニシテ傳染スルカ其ノ症狀ハ如何。

虎列刺ノ病菌ハ吐イタモノ下シタ物ノ中ニアツテ水、飲食物ニ雜ツテ人ニ傳染シマス。症狀ハ腹痛セズシテ下シ次デ吐キ目ガ窪ミ目ノ縁ニ鉛色ノ暈ヲ生ジ鼻ハ尖リ鼻ハ

七十、赤痢ハ如何ニシテ傳染スルカ其ノ症狀ハ如何。
赤痢モ亦虎列刺ト同様飲食物ト共ニ人ニ傳染シマス赤痢ニナツタ人ハ腹カ劇シク痛

ミ下シタ後又腹が絞ツテ下サントシ下ス物ハ後ニハ糊ノ様ナ血ガ雜リマス。

七十一、腸窒扶斯ハ如何ニシテ傳染スルカ其ノ症狀ハ如何。

腸窒扶斯モ亦飲食物カラ傳染シマス之ニ罹ツタ人ハ熱ガ約四週間續キ熱ノ爲メ精神ハ鈍クナリ譫語ヲ云ヒ甚シキハ狂人ノ様ナ舉動ヲナシ胸、腹、背ニ桃色ノ疹ガ出來マス。

七十二、ベストノ豫防法及其ノ症狀ハ如何。

ベストハ皮ノ小サイ創カラ侵入シマス蚤、鼠ハ此ノ病ヲ傳ヘ易イカラ之ヲ除去スル手段ヲ講ズルノガヨクアリマス。之ニカ、ツタ人ハ其ノ入ツタ創カラ心臟ノ近イ方ニ腫物ガ出來テ熱ヲ持チ顔ガ赤ク歩ムニモヨロメキ病ガ胸ニツイタトキニハ咳ガ出テ痰ニ血ヲ雜ゼマス。

七十三、麻刺列亞ノ豫防法及其ノ症狀ハ如何。

蚊ニ螫サレヌ様ニスル事ガ緊要デアリマス又「キニーネ」ト云フ藥ヲ服用スレバ蚊ニサレテモ病ガ起ラナイ事ガアリマス之ニカ、ツタ人ハ時ヲ隔テ、熱ヲ發シ熱ノ

前ニハ寒氣ヲ覺エテ體ガ震ヘ熱ノ後ニハ汗ガ出テ病ムコトガ久シケレバ色ガ蒼クナリマス。

七十四、四、結核ノ豫防法及其ノ症狀ハ如何。

呼吸カラ傳染シマス故ニ分ラヌモノヲ口ニシタリシテハイケマセン之ニ罹ツタラ色カ蒼クツテ咳ガ出デ腹ヲ下シマス。

七十五、トラホームノ豫防法ハ如何。

患者ノ目ノ汗ガ指手拭等ニツイテ傳染スルカラ之等ニヨク注意シマス。

七十六、花柳病ノ種類如何。

淋病、下疳、微毒ノ三種デ之ヲ三等症ト云ヒマス。

七十七、三等症ニ對スル心得ハ如何。

三等症ハ花柳病ニ罹ツテ居ル者ニ對シ不品行ヲシタトキニ起ルモノデアアルカラ軍人ノ病氣トシテハ最モ忌ムベキモノデアリマス、此ノ病氣ハ品行ヲ正シクサヘンラ居レバ決シテ罹リ犯サレルモノデアアリマセン。

七十八、靴傷ヲ豫防スル注意ハ如何。

- 一、靴下ヲ清潔ニシ靴ニハ脂ヲ塗り軟カニシマス。
- 二、行軍ニ際シテ軟膏類ガアルトキハ足ニ塗りマス。
- 三、靴下ニ皺ヲヨセナイ様ニ縫目ヲ外ニシテ穿キマス。
- 四、休止ノトキ又ハ宿營ニ就イタトキハ殊ニ足ノ趾ノ間ヲ洗ヒマス。
- 五、皮ノ赤クナツタトキニハ水デ冷シ又ハ酒類ヲ塗りマス。

衛戍服務規則

- 一、衛戍地トハ如何。
 - 二、衛戍司令官トハ如何ナル人カ。
- 其ノ衛戍地ノ高級古參ノ將校デアリマス例ヘバ師團司令部ノ在ル所デアレバ師團長歩兵一聯隊ノミアル所ナレバ其ノ聯隊長ガ衛戍司令官デアリマス。
- 軍隊ノ永久一地ニ屯在スルモノヲ云ヒマス例ヘバ東京衛戍地、名古屋衛戍地等ト稱スル如クデアリマス。

三、衛戍地ノ區域ハ誰ガ定ムルカ、

衛戍司令官ガ何處カラ何處迄ヲ衛戍地ト確定セラレマス。

四、衛戍服務ノ目的ハ如何。

平時衛戍地ノ治安ヲ保チ且ツ事變ニ際シテハ人民ヲ保護スルノデアリマス。

五、衛兵服務ハ何ノ爲メカ。

戰時警備勤務ノ豫習デアリマスカラ嚴格ニ服務セネバナリマセン。

六、服務ノ種類ハ如何。

- 第一種 分遣隊 護送兵
- 第二種 衛兵 號砲手 傳令兵 控兵 儀仗衛兵 使役
- 第三種 巡察 總代
- 七、服務ハ時間ニ差別ナキカ。

第一種ハ數日間連續服務シ、第二種ハ二十四時間ニ交代シ、第三種ハ不時ニ服務シマス。

八、分遣隊トハ何カ。

衛戍地ノ砲臺ハ火藥庫等ヲ守備スルモノデアリマス例ヘバ泉新田火藥庫分遣隊ト稱スルガ如クデアリマス。

九、護送兵トハ何カ。

囚徒、兵器彈藥等ノ護送ヲスルモノデアリマス。

十、衛兵トハ何カ。

官衙、兵器彈藥庫等ノ守備ニ任ズルモノデアリマス。

十一、號砲手トハ何カ。

號砲ヲ發放スルノヲ掌ツテ居ル者デアリマス。

十二、傳令兵トハ何カ。

衛戍司令官及衛兵ニ附屬シ命令及報告ノ傳達ヲナス者デアリマス。

十三、控兵トハ何カ。

時機ニ應ジテ衛兵ヲ臨時ニ増遣スル爲メ屯營内ニ備ヘルモノデアリマス。

十四、巡察トハ何カ。

衛兵ノ勤惰ヲ督シ且ツ衛戍司令官カラ定メラレタ地域ヲ巡檢スルモノデアリマス。

十五、總代トハ何カ。

慶賀、葬祭等ノトキ軍人ノ一部分ヲ代表シテ其ノ式場ニ臨席スル者デアリマス。

十六、使役トハ何カ。

兵器、糧食、被服等ノ運搬、手入等ノ雜役ヲ勤ク者デアリマス。

十七、衛兵所ニ休憩シ居ル下士兵卒ノ服裝ハ如何。

劍、彈藥盒、脚絆、靴ヲ脱スルヲ許シマセン。

十八、夜間衛兵ハ就眠シ得ザルカ。

三分ノ二ハ就眠スルコト出來マセン。

十九、衛兵ハ隨意ニ兵舎ヲ離ンテ宜シキカ。

暫時モ衛舎ヲ離レテハナリマセ、司令ハ度々點呼又ハ呼集ヲシテ警戒シマス。

二十、衛舎ニアル實包ハ如何ナル時使用スルカ。

衛戍司令官ノ命アルカ又ハ形勢萬止ムヲ得ナイトキニ衛兵司令ガ封鎖ヲ開キ配布シマス。

二十一、衛舎ニハ不慮ノ準備トシテ最近ノ如何ナル箇所ヲ揭示シアルカ。

一、憲兵屯所及警察署

二、兵 營

三、病院若クハ醫官ノ宿所

四、消防隊ノ屯所

二十二、事變ニ際シテ衛兵司令ハ如何ニ處置スルカ。

部下ヲシテ兵器ヲ執ラシメ人ヲ衛舎附近ニ集ラシメオイヤツ若シ群集ガ散セズ危急ノトキハ銃ニ裝填シマス。

二十三、右ノ場合ニ司令ハ何處ニ急報スルカ。

衛戍司令官、憲兵、警察官、兵營等ニ急報シマス。

二十四、衛舎掛ノ職務ハ如何。

衛舎内外ノ清潔ニ注意シ衛舎及舎内備附ノ諸器具ノ保存ニ任ジマス。

二十五、步哨掛ノ職務ハ如何。

步哨ノ交代ヲ掌リ且ツ服裝ヲ整正ニシ其ノ守則ヲ熟知シ且ツ嚴密ニ之ヲ實施サセルノガ任デアリマス又哨舎ノ清潔保存ヲモ監視セナケレバナリマセン。

二十六、衛兵ハ如何ナル時執銃整列スルカ。

警戒及敬禮ノ爲メニ整列シマス。

二十七、步哨服務中銃ノ保存法ハ如何。

擔銃或ハ立銃又ハ腕ニ銃ヲシテ守地ヲ看守シマス。

二十八、步哨ハ哨舎ヨリ何歩迄行動シ得ルカ。

三十歩以内ヲ行動シ得マス。

二十九、步哨ハ步哨掛ノ引率セシ兵ニ非ザレバ交代シ得ザルカ。

交代ハ出來マセン。

三十、步哨守地ニアル間ノ警戒上ノ注意ハ如何。

常ニ耳目ヲ活動シテ百事ニ注意シ瞬時モ警戒ヲ怠リマセン。

三十一、火事ノアリシトキハ如何ニスルカ。

「火事」ト呼ビ隣哨又ハ衛舎ニ報告シマス。

三十二、盜賊暴行者等ヲ見シトキハ如何ニスルカ。

「氣ヲ付ケ」ト呼ビ隣哨又ハ衛舎ニ報告シマス。

一、日清戦争及一事變ノ原因結果

一、日清戦争ノ原因及結果

明治二十六、七年頃朝鮮ニ東學黨ト云フ賊ガ起リマシタ時清國ハ朝鮮ヲ恰モ屬國ノ如ク考ヘテ條約ニ反キ日本ニ相談セズシテ勝手ニ兵隊ヲ出シマシタカラ日本ハ朝鮮ノ獨立ヲ確カニシ又一ツニハ東洋ノ平和ヲ維持スルタメ戦争ヲ起シ清兵ヲ陸ニ牙山、平壤ニ敗ツテ朝鮮ヲ撤退セシメ逃グルヲ追ウテ九連城、岫巖、旅順、營口等ヲ占領シ海ニ敵艦ヲ黃海ニ敗リ威海衛ヲ陥レ遂ニ清國ヲシテ償金ヲ出シ臺灣ヲ割イテ降ヲ乞ハシメマシタ。

二、北清事變ノ原因及結果。

明治三十三年ノ始メ清國ニ團匪ト稱スル賊ガ起リ主トシテ外國人ニ寇ヲ致シマシタ政府ハ之ヲ鎮メル手段ヲ施シマセンノミナラズ清國兵ノ一部ハ之ト同盟シマシテ北京ノ各國公使館ヲ襲ヒ之ヲ圍ミマシタ日、英、米、露、佛等ノ諸外國ハ聯合軍ヲ編成シマシテ先ヅ團匪及清兵ヲ天津附近ニ敗リ次デ北京各國公使館ノ圍ヲ解キ北京ノ皇居ヲ占領シマシタ清國皇帝ハ止ムナク都ヲ去リマシテ償金ヲ出シ駐屯軍ヲ北京天津ニ置ク事ヲ約シテ和ヲ乞ヒマシタ。

三、日露戦争ノ原因及結果。

露國ハ日本ニ數十倍セル大國ナレドモ北方ノ國デアルカラ年中不凍ノ港ヲ持ツテ居リマセンカラ常ニ朝鮮カ清國ノ方ニ手ヲ延バシテ不凍ノ港ヲ獲ント計畫シテ居リマシタ所ガ日清戦争ノ結果日本ガ清國ニ勝ツテ朝鮮ノ獨立ヲ確カニシタノミナラズ自分ノ望ンデ居リマシタ遼東ノ地ヲ受取リマシタカラ獨、乙、佛蘭西、ト同盟シテ日本ガ遼東ノ地ヲ占領スルハ東洋ノ平和ニ害アリトシテ無理ニ日本ニ遼東ノ地ヲ清國

ニ還ス事ヲ申込ミマシタ日本ハ残念ナガラ日清戦争ノタメニ國力が弱ツテ居リマシ
 タカラ之ヲ清國ニ返シマシタ然ルニ露國ハ無禮ニモ日本ニ遼東ノ地ヲ還ヘサセテ置
 キナガラ其ノ後追々ト滿洲遼東ニ手ヲ延バシ途ニ清國ニ迫ツテ遼東ノ地ヲ二十五年
 間ツ約束デ借り受ケ大連旅順等ヲ根據トシテ氣儘勝手ノ振舞ヲナスノミナラズ終ニ
 ハ朝鮮ノ北境ニ迄手ヲ延バシマシタカラ日本ハ其ノ不都合ヲ露國ニ責メマシタケレ
 ドモ暖昧ノ返事ヲナシ且ツ益々不都合ナ振舞ヲナシマシタカラ止ムヲ得ズ戦争ヲ起
 シ大ニ露軍ヲ滿洲ニ敗リ又海軍ハ露國ノ艦隊ヲ日本海ニ殲滅シ途ニ露國ヲシテ遼東
 及樺太南半部ノ地ヲ割キ長春以南ノ鐵道ヲ讓リ朝鮮ニ手ヲ出サヌ事ヲ約シテ和ヲ乞
 ハセマシタ。

靖國神社及祭祀日

一、靖國神社ハ如何ナル神社ナルカ。
 維新以來軍人ノ戦死シタモノ及戦死ニ準スル者又ハ國家ニ偉功ノアツタ者ヲ神トシ
 テ祀ラレル處デアリマス。

二、靖國神社ハ何處ニアルカ。

東京市九段坂ノ上ニ在ツテ別格官幣社デアリマス。

三、靖國神社ノ祭日ハ何時ナルカ。

毎年五月六日、十一月六日ノ二回ニ盛大ナル祭典ヲ施行シ東京所在ノ軍人ハ必ず參
 拜スルノデアリマス。

畏レ多クモ陛下ハ勅使ヲ遣ハサレ或ハ陛下御自身御參詣アラセラレマス。

四、靖國神社ニ對シテ我々ハ如何ニ心得ベキカ。

生キテハ窮リナキ皇恩ヲ蒙リ死シテハ護國ノ神トシテ祀ラレ鄭重ナル祭典ヲ受ク戰
 病死者軍人ノ光榮此上ナキコトト思ヒマス故ニ我々ハ大元帥陛下ノ爲メ十分ナ功ヲ
 立テ此神ニ祀ラレルノヲ最モ名譽ト心得テヨリマス。

五、三大節トハ如何。

四方拜、紀元節、天長節デアリマス。

六、祝日ハ如何。

元始祭、孝明天皇祭、春季皇靈祭、神武天皇祭、秋季皇靈祭、神嘗祭、新嘗祭デア
リマス。

七、四方拜トハ如何。

歳ノ始メノ一月一日天皇陛下親シク神嘉殿ニテ伊勢神宮ヲ始メ諸神ヲ禮拜遊バサレ
ル大祭日デアリマス。

八、紀元節トハ如何。

我國ノ最初ノ天皇陛下ナル神武天皇ノ即位ノ禮ヲ舉ゲ給ヒシ日、即チ二月十一日デ
アリマス。

九、明治四十一年ハ紀元何年ナルカ。

紀元二千五百六十八年デアリマス。

十、天長節トハ如何。

今上天皇陛下ノ御降誕アラセ給ヒシ日デ即チ十一月三日デアリマス。

十一、陸軍始トハ如何。

歳改ツテ陸軍ノ益々奮勵シテ訓練ス可キガタメ、歳ノ始メヲ祝フ可キ日即チ一月八
日デ此ノ日觀兵式ヲ行ハレマス。

十二、觀兵式ハ何時行ハレルカ。

通常陸軍始ト天長節トノ二回行ハレルノデアリマス。

兵語ノ解

一、戦争トハ如何。

一國ガ他國ニ對シ其ノ國ノ目的ヲ徹シ若シクハ之ヲ保ツテ行ク爲メニ用フル最後ノ
カヅクノ喧嘩デアツテ之ヲ別ケレバ陸戰ト海戰トノ二種ニナリマス。

二、戰役トハ如何。

戦争ノ終始全局期間ノ總稱デアリマス。

三、戰闘トハ如何。

彼我兵器ヲ以テ相戰フカヅクノ喧嘩ヲ謂ヒマス。

四、攻戰トハ如何。

應用問答

敵國ニ攻メ入ランガ爲メ進ンデ戦ヲ求メルノヲ謂ヒマス。

五、守戦トハ如何。

自國ニアツテ敵ノ攻メ來ルノヲ喰ヒ止メルノヲ謂ヒマス。

六、戦地トハ如何。

彼我兩軍相對シテ戦争スル全地域ヲ謂ヒマス。

七、作战地トハ如何。

戦地ノ一部デ彼我兩軍作战スル所ノ地域ヲ謂ヒマス。

八、戦場トハ如何。

作战地ノ一部デ彼我戦闘ヲ交フル場所ヲ謂ヒマス。

九、決戦トハ如何。

勝敗ヲ決セム爲メニ行フ所ノ戦闘ヲ謂ヒマス。

十、持久戦トハ如何。

時間ノ餘裕ヲ得ル爲メ敵ヲ支フル所ノ戦闘デアツテ其ノ實行法ハ多クハ防禦デアリ

マスガ時トシテハ攻撃動作ニ出ルコトガアリマス。

十一、遭遇戦トハ如何。

彼我運動中相衝突シテ發生スル所ノ戦闘ヲ謂ヒマス。

十二、攻撃トハ如何。

敵ヲ撃破セムガ爲メ進ンデ戦闘ヲ求メルノヲ謂ヒマス。

十三、防禦トハ如何。

攻撃シ來ル敵ヲ防ガンガ爲メ止マツテ戦闘スルノヲ謂ヒマス。

十四、本攻トハ如何。

一ニ之ヲ本攻撃ト稱シ主力ヲ用ヒテ爲ス所ノ攻撃ヲ謂ヒマス。

十五、助攻トハ如何。

一ニ之ヲ副攻撃ト稱シ本攻ヲ容易ナラシメル爲メニ行フ助勢ノ攻撃ヲ謂ヒマス。

十六、包圍トハ如何。

正面攻撃ト相連繫シテ敵ノ一翼ヲ包ミ圍ムノヲ謂ヒマス。

十七、迂回トハ如何。

遠ク敵ノ側面或ハ背後ニ向ツテ行フ運動ヲ謂ヒマス。

十八、牽制トハ如何。

我ガ欲スル方向ニ敵ヲオビキ出シ若クハ之ヲ引キ止メテ置ク事ヲ謂ヒマス。

十九、逆襲トハ如何。

防禦ノ姿勢ニ在ルモノガ攻者ニ對シ機ヲ見テ攻撃ニ轉ズル事ヲ謂ヒマス。

二十、奇襲トハ如何。

一ニ急襲ト稱シ敵ノ備ナキニ乘ジ急ニ之ヲ襲フ事ヲ謂ヒマス。

二十一、追撃トハ如何。

退却スル敵ヲ追ウテ攻撃スルノヲ謂ヒマス。

二十二、退却トハ如何。

敵ニ對シ背ヲ見セテ進ム軍デアリマス故ニ戦闘ヲ交ヘズシテ背進スルモ亦退却デアリマス。

二十三、收容トハ如何。

後方部隊ガ敵ノ追撃ヲ喰ヒ止メテ前方部隊ニ退却サセル事ヲ謂ヒマス。

二十四、開進トハ如何。

縦長ノ隊形カラ横廣ノ隊形ニ移ルノヲ謂ヒマス

二十五、展開トハ如何。

密集隊形カラ戦闘隊形ニ移ルノヲ謂ヒマス。

二十六、搜索トハ如何。

敵狀ヲ探リ明ルクスル事ヲ謂ヒマス。

二十七、警戒トハ如何。

不意ノ敵襲ガナイ様ニ注意シ若シ敵襲ガアレバ之ヲ防イテ後方部隊ニ準備ヲサシテヤル事ヲ謂ヒマス。

二十八、占領トハ如何。

兵力ヲ以テ確實ニ取置ク事ヲ謂ヒマス。

二十九、先頭、後尾トハ如何。

軍隊ノ現在スル方向（行軍ニ在ツテハ前進方向）ノ最先又ハ最尾ヲ謂ヒマス戦備行軍ニ於テハ支隊ノ先頭若シクハ前衛ノ先頭ト稱スルモノハ前衛歩兵（通常尖兵）ノ最先ヲ謂フノデアリマス。

三十、左右ハ何ニ就テ云フカ。

敵ニ面シテ右左ヲ云ヒマス右側衛、左側衛ノ名稱モヤハリ其ノ通りデアリマス。

三十一、右岸、左岸トハ如何。

下流ニ面シテ云ヒマス。

褒賞

一、褒賞ハ何々カ。

勳章 記章 褒賞休暇 善行證書 適任證書 勤功章等デアリマス。

二、勳章ハ何ノ爲メニ賜ハルカ。

國家ニ功勞アル者ニ賜ハルモノデ軍人ノ最モ名譽トスル所デアリマス。

三、勳勞、勳功、殊勳トハ如何ナル區別アルカ。

勳勞トハ平戰兩時ニ通シ國家ノタメ功績ノアルモノヲ云ヒマス。

勳功トハ平戰兩時ニ於テ國家ノタメ偉大ナ功績アル者ヲ云ヒマス。

殊勳トハ外國トノ戰爭中拔群ノ武功アルモノヲ云ヒマス。

四、勳章ノ種類ヲ大別セバ如何。

一、大勳位菊花章

二、旭日章

三、瑞寶章

四、金鷄章

五、寶冠章

五、菊花章ノ區別。

大勳位菊花大綬章 大勳位菊花章頸飾ノ二種。

六、旭日章ノ種類ハ如何。

勳一等旭日桐花大綬章 勳一等旭日大綬章 勳二等旭日重光章

勳三等旭日中綬章 勳四等旭日小綬章 勳五等旭日雙光章

勳六等旭日單光章 勳七等青色桐葉章 勳八等白色桐葉章

七、瑞寶章ノ種類ハ如何。

勳一等ヨリ勳八等迄アリマス。

八、金鷄章ノ種類ハ如何。

功一級ヨリ功七級迄アリマス。

九、寶冠章ノ種類、如何。

勳一等ヨリ勳八等迄此勳章ハ婦人ノ功勞アル者ニ賜ハルモノデアリマス。

十、記章トハ何カ。

從軍記章 憲法發布ノ記念章 赤十字徽章等ヲ云ヒマス。

十一、褒賞休暇トハ如何。

下士兵卒ノ勤務勉勵學術科優秀ノ者ニ與ヘル休暇ヲ云ヒマス。

十二、善行證書トハ何カ。

現役中行狀方正勤務勉勵學術技藝ニ熟達シタ者ヲ表ハス所ノ名譽ノ證明デアリマス。

十三、右ノ證書ハ何時附與セラレルカ。

現役滿期ノ際聯隊長カラ附與セラレマス。

十四、下士適任證書トハ如何。

上等兵デアツテ學術優等品行端正勤務勉勵下士ノ資格アル者ニ滿期ノ際附與セラレマス。

十五、勳功章トハ如何ナルモノカ。

陸軍下士ノ精勤年功ヲ表彰スルモノデアリマス。

十六、勳功章ハ如何ナル者ニ附與セラレルカ。

營内居住ノ各兵科下士任官後六年以上勤續シ勤務精勵品行端正學術優秀デアツテ下士ノ儀表タル者ニ之ヲ附與スルモノデアリマス。

兵役及服役

- 一、日本帝國臣民ハ何歳ヨリ何歳迄兵役義務アルカ。
日本帝國臣民タル男子ハ滿十七歳カラ四十歳迄ハ兵役ニ服スル義務ガアリマス。
- 二、兵役ハ分ツテ何種トスルカ。
常備兵役、後備兵役、補充兵役、及國民兵役ノ四種デアリマス。
- 三、常備兵役ヲ何種ニ分ツカ。
現役ト豫備役トデアリマス。
- 四、兵役ニ服スル順序ハ如何。
現役、豫備役、後備役、國民兵役ノ順序デアリマス。
- 五、現役、及豫備役ハ何年ナルカ。
現役ハ三ケ年、豫備役ハ四年四ケ月デアリマス故ニ常備役ハ七年四ケ月デアリマス、
但シ歩兵ハ現役二ケ年デ歸休シマス。
- 六、後備役ハ何年カ。

- 十ケ年デアリマシテ常備役ヲ終ツタモノガ服シマス
- 七、補充兵役ハ何年ナルカ。
十二年四ケ月デアリマス。
- 八、國民兵役トハ如何。
國民兵役ハ第一國民兵役ト第二國民兵役トノ二ツデアリマス。
第一國民兵役ハ後備役ヲ終ツタ者ガ之ニ服シマス。
第二國民兵役ハ常備兵役、後備兵役、補充兵及第一國民兵役ニ服シテ居ラヌ者ガ服シマス。

下士ノ服役

- 九、下士ノ服役ハ如何。
下士ノ服役ハ之ヲ分ツテ現役、豫備役及後備役トシ其ノ服役ヲ終ツタトキハ第一國民兵役ニ服シマス。
- 十、下士ノ服役期限ハ如何。

兵役及服役

- 一、日本帝國臣民ハ何歳ヨリ何歳迄兵役義務アルカ。
- 日本帝國臣民タル男子ハ滿十七歳カラ四十歳迄ハ兵役ニ服スル義務ガアリマス。
- 二、兵役ハ分ツテ何種トスルカ。
- 常備兵役、後備兵役、補充兵役、及國民兵役ノ四種デアリマス。
- 三、常備兵役ヲ何種ニ分ツカ。
- 現役ト豫備役トデアリマス。
- 四、兵役ニ服スル順序ハ如何。
- 現役、豫備役、後備役、國民兵役ノ順序デアリマス。
- 五、現役、及豫備役ハ何年ナルカ。
- 現役ハ三ケ年、豫備役ハ四年四ケ月デアリマス故ニ常備役ハ七年四ケ月デアリマス、但シ歩兵ハ現役二ケ年デ歸休シマス。
- 六、後備役ハ何年カ。

- 十ケ年デアリマシテ常備役ヲ終ツタモノガ服シマス
- 七、補充兵役ハ何年ナルカ。
- 十二年四ケ月デアリマス。
- 八、國民兵役トハ如何。
- 國民兵役ハ第一國民兵役ト第二國民兵役トノ二ツデアリマス。
- 第一國民兵役ハ後備役ヲ終ツタ者ガ之ニ服シマス。
- 第二國民兵役ハ常備兵役、後備兵役、補充兵及第一國民兵役ニ服シテ居ラヌ者ガ服シマス。

下士ノ服役

- 九、下士ノ服役ハ如何。
- 下士ノ服役ハ之ヲ分ツテ現役、豫備役及後備役トシ其ノ服役ヲ終ツタトキハ第一國民兵役ニ服シマス。
- 十、下士ノ服役期限ハ如何。

左ノ二様デアリマス。

一、志願ニ依ラズシテ兵卒カラ下士ニ任セラレタ者ハ徵集年ノ十二月カラ算シテ十七年四ヶ月。

二、前項ノ外、下士ニ任セラレタ者ハ下士任官ノ年ノ十二月カラ起算シテ十七年四ヶ月。

十一、下士ノ現役ノ服役期限ハ如何。

各兵科各部ニ依リ左ノ如ク別レテ居リマス。

一、憲兵科下士ハ前服役ヲ通ジテ六ケ年。

二、歩、騎、砲、工、輜重兵科、衛生部下士ハ入隊ノ月カラ四ケ年。

三、經理部下士ハ經理部下士ニ任セラレタ月カラ二ケ年。

四、軍樂部下士ハ樂手補ヲ命ゼラレテカラ五ケ年。

五、志願ニ依ラナイデ兵卒カラ下士ニ任セラレタ者ハ入隊ノ月カラ三ケ年。

十二、隊附下士ノ現役年限年齢ハ如何。

隊附各兵科各部下士ハ四十歳デアリマス。

十三、下士ハ現役満期ノ後現役年限満ル迄再役スルコトガ出來ルカ。

數次再役スルコトガ出來マス。

十四、再役ハ何年ツ、ナシ得ルカ。

毎回一ケ年ツ、再役シマス但シ入隊后六ケ年以上現役ニ服シタ者ハ一度ニ一年以上數ケ年ヲ志願スルコトガ出來マス。

十五、再服役ヲナス手續ハ如何。

再服役ハ中隊ニアツテハ所屬中隊長ニ出願シ中隊長ハ順序ヲ經テ聯隊長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ受ケマス。

再服役ヲ許可セラレタトキハ誓約書ヲ中隊長若クハ直屬長官ニ差出シマス。

十六、豫後備役下士ノ兵籍及管轄ハ如何。

本籍所在師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬シマス。

十七、豫備役後備役下士ハ現役満期退營後更ニ現役ヲ志願シ得ルカ。

豫備役、後備役軍曹伍長及全相等官ハ現役満期后一ケ年以内ニ更ニ現役ヲ志願スル
コトガ出来マス。

兵卒ノ服役

十八、現役兵卒ノ取扱ハ如何。

現役兵ハ入隊ノ日カラ其隊ノ兵籍ニ編入シ管内ニ居住シ現役期限満ル迄服役シマス。
但シ憲兵上等兵、樂手補ハ營外ニ居住シマス。

十九、兵卒ノ現役定限年齢ハ何歳カ。

四十歳デアリマス。

二十、輜重輸卒、看護卒ノ現役期限及在營期限如何。

現役期限ハ二年四ケ月デ輜重輸卒ハ三ケ月、看護卒ハ四ケ月在營ノ後、歸休ヲ命ゼ
ラレマス。

二十一、現役中ハ如何ナル事故ニテ現役ヲ免ゼラル、カ。

本人ガ居ラナケレバ家族ガ自活シ得ナイ事故ヲ生シタトキハ其ノ家族ノ願ニ依ツテ

現役ヲ免ゼラル、コトガアリマス。

二十二、現役中傷疾疾病ニ依リ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ如何。

現役ヲ免ゼラレマス。

二十三、上等兵上等看護卒、樂手補ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ如何ニ處分セ
ラル、カ。

上等卒ハ一等卒トナシ、憲兵科、上等看護卒樂手補ハ前兵科(前兵科ナキ者ハ歩兵科)
ノ一等卒トナツテ服役シマス。

二十四、豫備役後備役兵卒ノ兵籍及管轄ハ如何。

本籍所在地師管ノ兵籍ニ編入シ聯隊區司令官ノ管轄ニ屬シマス。

二十五、豫備役勤務上等兵、上等看護卒中伍長勤務上等兵、計手勤務上等兵タリシ者
及下士適任證ヲ有スルモノハ現役満期後現役下士ヲ志願シ得ルカ。

現役満期後一ケ年以内ニ志願スルコトガ出来マス。

在郷軍人ノ心得

一般ノ心得

- 一、在郷軍人トハ如何ナル者ヲ云フカ。
陸海軍ノ現役以外ノ兵役ニアル者、陸海軍ノ現役ニテ未ダ入營入團セザル者、歸休兵及豫後備退役將校及同相當官准士官ヲ云ヒマス。
- 二、在郷軍人トシテ一旦事アルトキノ心掛ケハ如何。
戰時又ハ事變ニ當ツテハ直ニ召集ニ應ジ潔ク入營スル決心ト其ノ準備トヲ常ニ心掛ケネバナリマセン。
- 三、軍人ノ態面ヲ保チ世人ノ手本トナルニハ如何ニ心掛ク可キカ。
粗暴、破廉耻ノ行ヲセズ軍隊ヲ教育セラレタ事ヲ時々復習シテ自分ノ固有ノ職業ニ勉勵シ法令規則等ハ軍隊ニ居ルトキト同様ニ堅ク守ル様ニセネバナリマセン。
- 四、在郷軍人ノ長官ハ誰カ。
所管ノ聯隊區司令官デアリマスカラ其官姓名ハ知ツテ居ラネバナリマセン。
- 五、軍隊手牒ヲ大切ニ保存ス可キハ何故カ。

軍隊手牒ハ現役中カラ在郷中ニ至ル迄ノ軍人精神ノ宿ツテ居ルモノデアルカラ大切

ニ持ツテ居ラネバナリマセン故ニ破損紛失等ノナイ様ニ注意ス可キデアリマス。

六、若シ軍隊手牒ヲ破損紛失シタルトキハ如何ニ手續ス可キカ。

聯隊區司令官ニ代金ニ願書ヲ添ヘテ代品ノ下渡ヲ願出デマス。

七、在郷軍人トシテ敬禮ハ如何ニ注意ス可キカ。

上官ヲ敬スルノハ軍人ノ美德デアルカラ在郷中デモ軍服ヲ着ルト否トニ拘ハラズ、軍旗ヤ上官ニ遇ウタトキハ敬禮ヲセネバナリマセン。

八、軍服ヲ着スル時ノ心得ハ如何。

服裝法ニ違ハナイ様ニ注意シ且ツ軍服ヲ着ケテ軍人ノ體面ヲ汚ス様ナ處へ出入シテハナリマセン。

九、在郷軍人團等ニ對スル心得ハ如何。

在郷軍人團ノ會合ニハ成ル可ク出席シテ親睦ヲ厚クシ互ニ助け合フノガ宜シツアリマス。

十、軍隊ガ演習行軍等ニテ郷里ノ附近ニ來リシトキノ心得ハ如何。

郷里ノ附近ニテ軍隊ノ演習等アレバ成ル可ク之ヲ見學シ、且ツ軍隊ニ便宜ヲ與フルコトヲ努メマス。

勳章、徽章所持者ノ心得

一、勳章徽章ニシテ佩用シ得ルモノハ何々カ。

金鷄章、旭日章、瑞寶章、外國ノ勳章(特ニ佩用ヲ許サレシモノ)從軍記章、赤十字社徽章、射撃徽章、紀念章(憲法發布銀婚式ノモノ)勳功章デアリマス。

二、勳章、徽章佩用ノ服裝ハ如何。

軍服着用ノトキニ限りマス、文官ノ禮服燕尾服ニ佩用シテ宜ウアリマス。

三、羽織袴「フロックコート」ノトキハ何ヲ佩用スルカ。

略綬ヲ佩用シマス。

四、勳章佩用ノ順序ハ如何。

同等ノ勳章ナレバ金鷄章、旭日章、瑞寶章ノ順序ニ右ラカ佩用シ勳功等級上位ノモ

ノハ最モ右ニ等級ノ上カラ順序ニ佩用シマス。

五、從軍記章ハ如何ニ保存シ得ルカ。

本人ニ限り終身佩用シ子孫ハ之ヲ保存スルコトヲ許サレマス。

六、勳章及年金ハ如何ナル場合ニ褫奪セララルカ。

左ノ場合ニ褫奪セララルカヲ注意シナケレハナリマセン。

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ。

二、賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者。

三、懲戒令及免黜條例ニ依リ免官セラレシ者。

四、素行修ラズ帶勳者ノ面目ヲ汚ス者。

七、從軍記章ハ褫奪セララルコトアルカ。

勳章ト同様ニ犯罪或ハ體面ヲ汚ス者ハ褫奪サレマス。

八、新年、紀元節、天長節ニ際シ有位帶勳功者ノ宮中ニ對スル心得ハ如何。

右ノ場合ニハ在郷軍人モ在京者ハ宮中ニ參賀シ地方在住者ハ賀表ヲ上ルモノデアリ

マス參賀ノ時刻ハ其ノ都度告示ガ出マス。

九、賀表ノ書式ハ如何。

謹奉賀天長節
年月日 勳等氏名

謹奉賀紀元節
年月日 勳等氏名

謹奉賀新年
年月日 勳等氏名

横ニ二折、縦ニ四折

十、賀表呈出ニ就テノ注意ハ如何。

- 一、料紙ハ大廣奉書ヲ用ヒ但シ美濃紙ヲ用ヒテモヨロシイ。
- 二、郵便ハ東京市宮内省式部職御中トシ書留トナスコト。
- 三、賀表ハ連名ニテモ宜ウアリマス。

除隊並ニ歸郷後ノ處置

- 一、現役兵ノ除隊時日ハ如何、
通常十一月卅日デアリマス、但シ歸休兵ノ除隊ハ秋季機動演習後若干日早クナルコトガアリマス。
- 二、除隊ノ時差當リ注意ス可キコトハ。
郷里ニ土産物ヲ配布スル爲メ手拭、盆等ヲ購フハ無用デアリマス成ル可ク質素ガ宜シイ。私服調制ハ宜シイガ、制式デ華美ニ流レズ廉價ノガ宜シイ又隊カラ軍服ヲ借用スルコトモ出来マス。
- 三、歸郷後ノ届出ハ何時ナス可キカ。
下士ハ居住地到着後十四日以内兵卒ハ七日以内ニ届出デマス。
- 四、歸郷セズ途中デ滞在スルニハ如何ニ手續スルカ。
八日以上途中ニ滞在セントスルトキハ届出ヲ要シマス。

五、歸郷後原隊ニ對シ如何ナルコトヲナス可キカ。
 原隊ニ對シテハ特ニ手續ヲ要セナイガ貸與サレタ被服アラバ速ニ返納シマス。
 中隊長及將校室、事務室、班長等ニ對シテハ無事歸郷ノ旨ヲ報告スルヲ禮ト思ヒマス。

身上異動

- 一、在郷軍人中、町村長、收入役、議會ノ議員トナリ又ハ罷メタルトキノ心得ハ如何。
 市町村長ヲ經テ十四日以内ニ聯隊區司令官ニ届出デマス。
- 二、在郷軍人中、死亡又ハ所在不明ナルトキハ如何。
 戸主(本人戸主ナレバ家族中家事擔當者)カラ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出デマス。
- 三、在郷軍人中刑法ノ刑ニ處セラレシトキハ如何。
 刑名、刑期ヲ記シ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届ケマス。
- 四、現役ヨリ歸休兵、豫備役若クハ後備役ニ入ル者ノ歸郷又ハ滞在ノ時ノ手續ハ如何。

下士ハ七日以内兵卒ハ三日以内ニ衛戍地ヲ出發歸郷シ下士ハ十四日以内、兵卒ハ七日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出デマス。

若シ途中ニ八日以上滞在シ若クハ寄留セントスルトキハ出發期日內ニ本籍地ニ召集ノ命令ノアツタトキノ通報人ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官届出デマス。

五、在郷軍人十四日以上旅行又ハ寄留セントスルトキノ届出ハ如何。

十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキニハ本籍地ニ於テ召集ノ命アリシトキ之ヲ通報ス可キ者ヲ定メ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出デマス。

若シ寄留地ニ本籍地外ノ聯隊區ナレバ寄留地ノ市町村長ヲ經テ全地聯隊區司令官ニ届出デマス。

六、在郷軍人結婚、改姓名、分家轉籍、家族死亡等ノ身上ニ異動アリシトキノ心得ハ如何。

必ズ聯隊區司令官ニ届ケマス。

召集

- 一、召集ノ種類ハ如何。
- 充員召集、演習召集、臨時召集、國民兵召集、補缺召集、簡閱點呼デアリマス。
- 二、充員召集トハ如何。
- 動員ノ爲メ諸部團隊ヲ戰時ノ姿勢ニ充タス爲メ在郷軍人ヲ召集スルヲ云ヒマス。
- 三、演習召集トハ如何。
- 演習ノ爲メ在郷軍人ヲ召集スルヲ云ヒマス。
- 四、臨時召集トハ如何。
- 充員召集後缺員ヲ補充スル爲メノ召集ヲ云ヒマス。
- 五、國民兵召集トハ如何。
- 戰時國民軍ヲ動員スル爲メ國民兵ヲ召集スルヲ云ヒマス。
- 六、補缺召集トハ如何。
- 平時臨時ニ兵員ノ補缺ヲ要スルトキ歸休兵ヲ召集スルヲ云ヒマス。
- 七、簡閱點呼トハ如何。

- 八、動員トハ如何カ。
- 在郷軍人ヲ集合シテ點檢査閱スルノデ毎年一回行ヒマス。
- 軍隊ガ平時ノ編成カラ戰時ノ編成ニ移ル動作ヲ云ヒマス。
- 九、市町村長ヨリ召集令狀ヲ受ケタルトキノ手續ハ如何、
- 令狀ニ添付シアル受領證ニ令狀受領時刻ヲ記入シ氏名ノ下ニ捺印シテ返シマス。
- 十、充員召集ヲ受ケタルトキ本人不在ノ時ハ如何。
- 召集通報人ハ迅速確實ニ召集部隊ト到着地ニ到着スベキ時日ヲ通報スルノデ有マス。
- 十一、召集ノ通報ヲ受ケタルトキ指定時間ニ到着シ能ハザルトキハ如何。
- 其ノ地ノ郡市町村長又ハ憲兵、警察官吏、船長若クハ驛長ノ證明ヲ受クルモノデアリマス。
- 十二、到着セバ如何ナル手續ヲナスカ。
- 召集事務所ニ到着シ令狀ヲ以テ届出マス。
- 十三、召集事務所ハ何處ニ設ケラルカ。

召集部隊、時トシテ召集途中集合場ニ設ケラレマス。
十四、召集ノ旅費ハ如何。

出發前令狀ノ裏面ニ記載シアル處デ受領シマス但シ簡閱點呼ニハアリマセン。

十五、召集令狀ヲ受ケ又ハ其ノ通報ヲ受ケタルトキ傷痍疾病ノ爲メ應召シ能ハザルト
キハ如何。

令狀又ハ通報受領後廿四時間以内ニ聯隊區司令官ニ市町村長ヲ經テ醫師ノ診斷書ニ
令狀ヲ添ヘテ届出デマス。

十六、應召員召集途中傷痍疾病ニ罹リシ時ノ所置ハ如何。

直ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ召集部隊ニ届出テ又出發シ得ルニ至ラバ證明書ヲ受ケ召
集部隊ニ到着ノ上届ケマス。

十七、應召員途中宿泊所ノ設ケアルカ。

旅舎ガアリマス軍用旅舎ノ看板標旗等ガアリマス。

十八、演習召集ニテ父母、妻子ノ疾病危篤死亡ノ爲メ召集ノ延期ヲ乞フコトヲ得ルカ。

延期スルコトガ出來マス、聯隊區司令官ニ宛テタ願書ヲ本籍地市町村長ニ出シマス
但シ父母妻子ノ危篤ニハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘマス。

十九、簡閱點呼執行官トハ如何。

簡閱點呼ヲ執行スル將校ヲ云ヒマス。

二十、點呼令狀來ルモ傷痍疾病ノ爲メ召集シ得ザル者ハ如何。

令狀ヲ受ケタ者ハ參集日迄ニ點呼執行官ニ宛テ届書ヲ差出シ其ノ令狀ハ市町村長ニ
差出シマス。

二十一、正當ノ事由ナク點呼ニ參集セザル者ハ如何。

五十錢以上二圓以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處セラレマス。

二十二、寄留地ニ於テ簡閱點呼又ハ勤務演習ニ應ジ得ルカ。

出來マス、但シ勤務演習ハ一年以上寄留スルモノニ限リマス。

二十三、在郷兵止ムヲ得ザル事故アリテ勤務演習簡閱點呼ノ猶豫若クハ免除ヲ願ヒ得
ルカ。

萬止ムヲ得ザル者ハ願書ニ市町村長ノ與書ヲ求メ聯隊區司令官ニ願出ヅルコトガ出來マス。

二十四。歸休兵演習又ハ兵員補缺ノ爲メ召集ノ命ヲ受ケタルトキ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニテ召集ニ應ジ難キトキハ如何。

傷病者ハ醫師ノ診斷書其ノ他ノ事故ハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ召集期日迄ニ聯隊區司令部ニ届マス。

二十五。在郷兵正當ノ理由ナク又ハ犯罪ノ爲メ召集ヲ缺キシ者ノ服役ハ如何。

其ノ召集ヲ缺キタル年ハ服役年限ニ算入セズ、一ケ年服役ヲ延期セラレマス。

二十六。身上異動其他ノ届出ヲ爲サザルトキハ如何。

五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處セラレマス。

二十七。在郷兵ニシテ臺灣ニ寄留スル者ハ同地ニテ勤務演習ヲ施行シ得ルカ。

一ケ年以上同地ニ寄留スルモノハ願ニ依リ同地デ應ズルコトガ出來マス。

下士 學科教育應用問答終

明治四十一年十月五日印刷
明治四十一年十月十五日發行

下士 學科教育應用問答集付
兵卒 (全一册) (金貳拾五錢)

著者

井上 弟五郎

發行者

伊藤 芳松

印刷人

荻原 勝次郎

印刷所

丸利印刷合資會社

東京市神田區三河町二丁目十四番地



東京市赤坂區表町二丁目一番地

發行所

兵事雜誌社

電話新橋四二〇二番

獨國歩兵大尉 フォンヘルフェルト氏著
日本 士官學校 譯
日本陸軍歩兵大尉 小島米三郎氏校補

歩兵斥候教育

紙裁 菊判半
紙數 百八十餘頁
定價 壹冊金拾貳錢
郵稅 金貳錢

本書原本は獨逸陸軍歩兵大尉フォン、ヘルフェルト氏の著にして斥候及び偵察の事項に關し有益なる夥多の例證を列擧せり氏の論理に本づき斥候教育の方法を釋明するや一新機軸を出だしその成績を收むること甚だ速かなりと評せられ單に獨逸に於て好評を博したるのみならず隣國佛蘭西に傳誦せられて噴々の評あり實に現在類書中の白眉とすべきもの我陸軍士官學校に於て抄譯せらるゝに至りたるを以て見るも本書が非凡の價值を有するを知るに足るべし斥候兵の教育に任ぜらるゝ青年將校及び故參下士は必ず精讀の勞を執らざるべからず又特り歩兵科將校下士にのみ止まるべけんや。

發行所

東京市赤坂區
表町二丁目一番地

兵事雜誌社

陸軍中將 寺内正毅閣下序
陸軍中將 乃木希典閣下閱
陸軍教授 石村貞一先生著

本三十訂正改版

訂讀法誓文術義

紙裁 四六判用紙上等舶來
紙數 百頁
定價 壹冊金拾三錢
郵稅 金二錢

軍人の必ず知らざるべからざるもの二、一は即ち勅諭、一は即ち讀法これなり。而して勅諭に對しては既に勅諭術義、勅諭詳解、勅諭講義等ありと雖も、讀法に至りては未だ解説したる者なし。此書大に好評を博せしが之を改纂増訂してその第二版を著し、本して讀法術義と云ふ。此書大に好評を博せしが之を改纂増訂してその第二版を著し、本さき、解釋はこれを必ず法律と云はず、好評を博せしが之を改纂増訂してその第二版を著し、本推し、解は最後に例證を必ず四段に分ちて、各項先づ文字の訓解を施し、次ぎに其の義理を推し、詩歌を挿入して平素諷誦の資に便せり、文章平易流暢、例證適切恰當、且つ文中所々に文字章句の末のみならず、全其の周到更に眼を刮すべきものあり、著者又自ら曰く、これを第一版に比すれば、願はくは以て江湖に背かざるに庶幾からむか。乞ふ續々愛讀を賜へ、

發行所

東京市赤坂區
表町二丁目一番地

兵事雜誌社

M
M
氏
編

下級幹部 各兵科 野外 必携

全一冊
體裁
約一百頁
定價
金拾八錢
郵稅
金二錢

本書は篇を分ちて前後の二篇とし、更に前篇を分つと十四章、後篇を分つと六章、其の録する所一として下級幹部諸子の好侶伴ならざるはなし。戰術の大要、攻守の利害、戰鬪隊形等はこれ即ち前部第一章に收むる所のもの、第二章には即ち各兵種の主務、武略、第三章には命令及報告の要領及傳令の心得等を收め、戰況に依りて各種の處置はこれを第四章に、行軍はこれを第五章に、第六、七章には行軍と相運に依りて駐軍に於て知らざるべからざる必要事項を載せたり。文章簡易明晰、其の野外に於ける下級幹部の實態たるべく、又必要事項を載せたり。而してその第七章以下の内、容に至りては、これを左の目次に就て見よ。

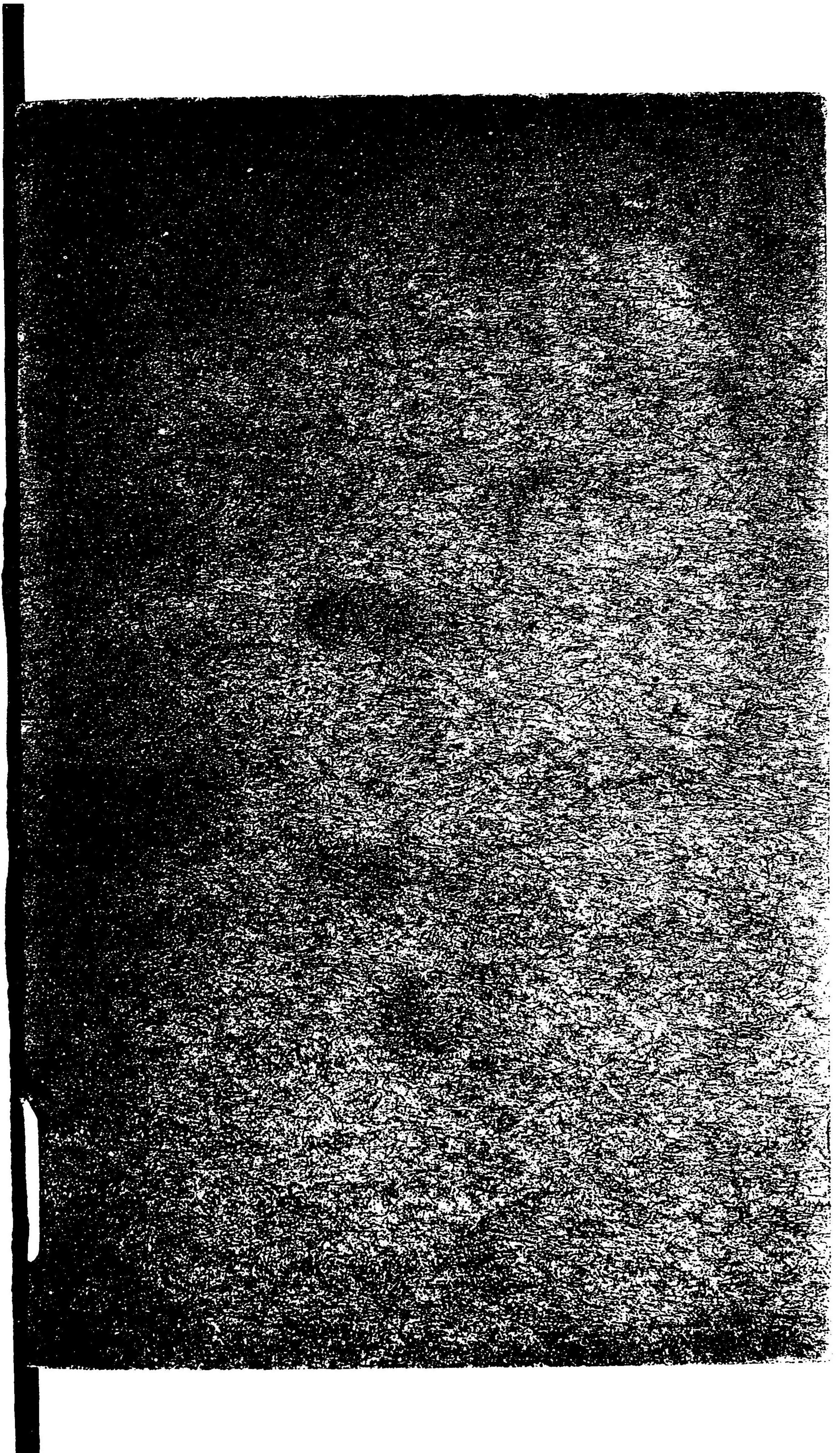
第七章 偵察の方位、監視、審判法等
第八章 行軍準備
第九章 衛生（陸軍衛生、野戰衛生の動作等）
第十章 散開戰
第十一章 散開戰の目的及散開戰の準備
第十二章 散開戰の動作
第十三章 散開戰の準備
第十四章 散開戰の動作
第十五章 散開戰の準備
第十六章 散開戰の動作
第十七章 散開戰の準備
第十八章 散開戰の動作
第十九章 散開戰の準備
第二十章 散開戰の動作
第二十一章 散開戰の準備
第二十二章 散開戰の動作
第二十三章 散開戰の準備
第二十四章 散開戰の動作
第二十五章 散開戰の準備
第二十六章 散開戰の動作
第二十七章 散開戰の準備
第二十八章 散開戰の動作
第二十九章 散開戰の準備
第三十章 散開戰の動作
第三十一章 散開戰の準備
第三十二章 散開戰の動作
第三十三章 散開戰の準備
第三十四章 散開戰の動作
第三十五章 散開戰の準備
第三十六章 散開戰の動作
第三十七章 散開戰の準備
第三十八章 散開戰の動作
第三十九章 散開戰の準備
第四十章 散開戰の動作
第四十一章 散開戰の準備
第四十二章 散開戰の動作
第四十三章 散開戰の準備
第四十四章 散開戰の動作
第四十五章 散開戰の準備
第四十六章 散開戰の動作
第四十七章 散開戰の準備
第四十八章 散開戰の動作
第四十九章 散開戰の準備
第五十章 散開戰の動作

以上は單にその要目を掲げしに過ぎず、而して卷末附するに上等兵の心得を以てし、たゞ乞ふ太方の諸子先づ一本を手にして、その便宜と實益とを閉却すると勿れ。

發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地

兵事雜誌社



051384-000-9

特16-89

下士兵卒学科教育応用問答

井上 第五郎/著

M41

BFB-0083

